

第 7 章

ひがしおおさか水道ビジョン2030

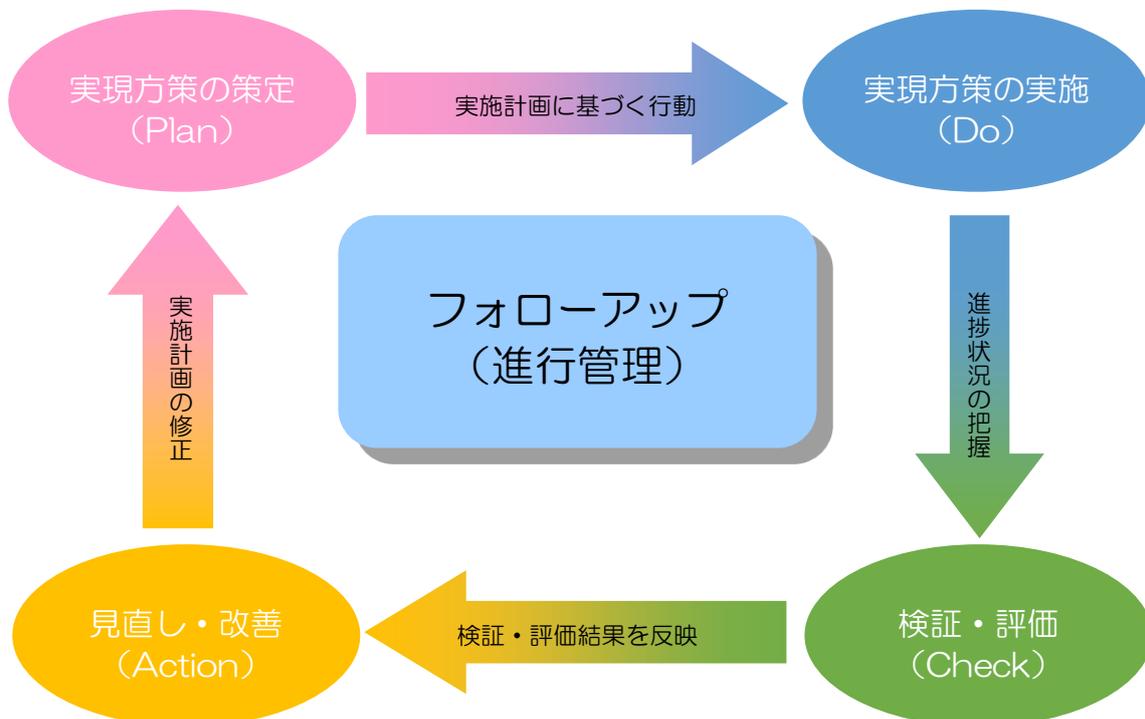
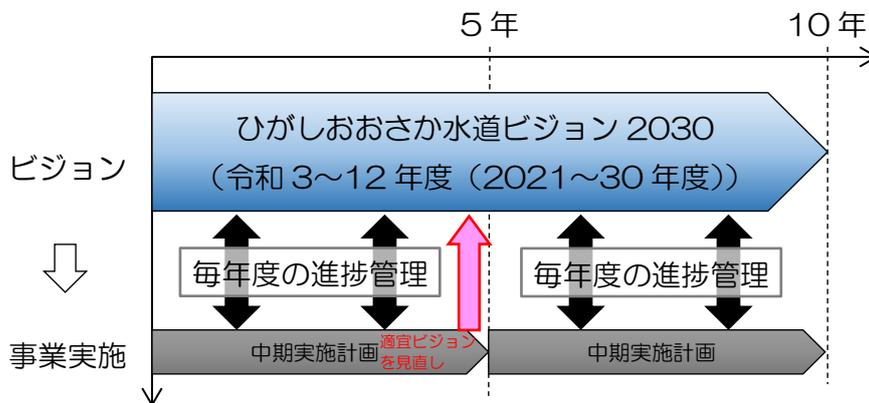
の実現に向けて

ビジョンのフォローアップ（進行管理）

「ひがしおおさか水道ビジョン 2030」では、50年後、100年後の長期的な将来を見据えて、今後10年間の東大阪市の水道事業の方向性を示しています。

多くの課題に直面し、事業環境が厳しくなるなか、ビジョンで示した施策や事業を推進するためには、計画的な取り組みが必要です。また、それぞれの取り組みの進捗状況や達成状況について、可能な限り定量的に評価することで、ビジョンの目標達成に向けた施策の推進や見直しを図っていく必要があります。

このため、ビジョンの実施計画として、5年毎に中期実施計画を策定し、PDCAサイクルにより各施策のフォローアップ（進行管理）を行います。



ビジョンの管理指標（KPI）

「ひがしおおさか水道ビジョン 2030」の実現に向けて、施策の進捗管理を的確に実施するために管理指標（KPI）を設定します。指標毎の目標値に対して、毎年度の目標達成度を評価し、目標達成に活用します。

（１）安全・安心・安定の信頼される水道

指標項目	単位	業務指標 PI※1	算定式	指標の説明	指標の 優位性※2	現状 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
水質基準不適合率	%	旧 1104	水質基準不適合回数/ 全検査回数×100	給水栓での水質基準値に対する不適合割合。	↓	0.0	0.0	0.0
水安全計画の運用・改善	—	—	—	水質管理の運用状況に基づく対応措置・方法の改善度合い及び水質基準の改定等の状況変化への対応状況を表す指標。	—	運用中	適宜改善	適宜改善
鉛製給水管率	%	A401	(鉛製給水管使用件数/ 給水件数)×100	給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合を示すものであり、鉛製給水管の解消に向けた取組みの進捗度合いを表す指標。	↓	8.4	5.5	3.1
小規模貯水槽水道点検率	%	A205 準拠	(5年以内に点検を実施した 小規模貯水槽水道件数/ 小規模貯水槽水道数)×100	5年以内に点検を実施した小規模貯水槽水道の件数の割合を示すもので、水道事業としての貯水槽水道への関与度を表す指標。	↑	—	80.0※3	100.0※3
管路更新率	%	B504	(更新された管路延長/ 管路延長)×100	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、管路更新の執行度合いを表す指標。	↑	0.68	1.00※4	1.00※4
配水池調査率	%	—	調査済施設数/コンクリート 製配水池施設数×100	躯体コンクリートの劣化状況を調査した配水池の割合を示すものであり、健全性確保に向けた配水池調査の執行度合いを表す指標。	↑	27.3	81.8	81.8
有収率	%	B112	(年間有収水量/ 年間配水量)×100	年間配水量に対する有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量がどの程度収益に繋がっているかを表す指標。	↑	94.6	95.0	95.0

※1：業務指標（PI）とは、水道事業者が水道サービスを客観的な数値で示し、施設の整備状況や事業の経営状況などを総合的に評価するための指標として用いているものであり、ここでは指標番号を参考に示しています。

※2：各指標の理想値の方向性であり、「↑：高い方が望ましい」「↓：低い方が望ましい」を示します。

※3：点検には設置者・管理者の同意・協力が必要であり、すべて同意・協力を頂けた場合と仮定します

※4：長期的な視点から管路の更新需要を見通し、投資の平準化も行うため、大口径管路を施工する年度は目標を達成できないこととなりますが、100年間で全ての管路が更新されるサイクルを構築・推進していきます。

(2) 災害に備えた強靱な水道

指標項目	単位	業務指標 PI※1	算定式	指標の説明	指標の 優位性※2	現状 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
配水池の耐震化率	%	B604	$(\text{耐震化済配水池有効容量} / \text{配水池有効容量}) \times 100$	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標。	↑	48.7	52.4	52.4
管路の耐震管率	%	B605	$(\text{耐震管延長} / \text{管路延長}) \times 100$	全ての管路の延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す指標。	↑	15.8	19.9	24.3
基幹管路の耐震適合率	%	B606-2	$(\text{耐震適合性のある基幹管路延長} / \text{基幹管路延長}) \times 100$	基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標。	↑	33.5	53.2	65.3
重要給水施設配水管路の耐震適合率	%	B607-2	$(\text{耐震化済重要給水施設配水管路延長} / \text{重要給水施設配水管路延長}) \times 100$	重要給水施設への配水管の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表す指標。	↑	—	39.6	54.4

※1：業務指標（PI）とは、水道事業者が水道サービスを客観的な数値で示し、施設の整備状況や事業の経営状況などを総合的に評価するための指標として用いているものであり、ここでは指標番号を参考に示しています。

※2：各指標の理想値の方向性であり、「↑：高い方が望ましい」「↓：低い方が望ましい」を示します。

(3) 健全な経営を持続できる水道

指標項目	単位	業務指標 PI※1	算定式	指標の説明	指標の 優位性※2	現状 (R1)	中間目標 (R7)	最終目標 (R12)
料金回収率	%	C113	(供給単価/給水原価)×100	給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標。	↑	97.3	100.0 以上	100.0 以上
料金収納率	%	C126	(料金納入額/調停額)×100	1年間の水道料金総調定額に対して、決算確定時点において納入されている収入額の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標。	↑	98.8	維持・向上	維持・向上
給水収益に対する企業債残高の割合	%	C112	(企業債残高/給水収益)×100	給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す指標。	↓	219.6	350.0 以下※3	350.0 以下※3
内部・外部研修時間	時間/人	C203 準拠	(職員が内部・外部研修を受けた時間×受講人数) / 全職員数	職員一人当たりの内部・外部研修の受講時間を表すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標。	↑	4.1	13.0以上	16.0以上
研究発表会における発表事例数	回/年	—	日本水道協会等の研究発表会における発表事例数	日本水道協会等の研究発表会における発表事例数を示すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標。	↑	なし	複数回	複数回
インターネットによる情報の提供度	回	C402	HP等への掲載回数	水道事業の情報発信回数を表すもので、お客様への事業内容の公開度合いを表す指標。	↑	129	向上	向上
水道に対する満足度	%	—	「満足」等回答数/アンケート回答数×100	アンケートで水道に「満足」等と回答した人数割合を示すもので、お客様の満足度を表す指標。	↑	63.5	向上	向上
建設副産物のリサイクル率	%	B306	(リサイクルされた建設副産物量 / 建設副産物発生量) × 100	水道事業における工事などで発生する建設副産物のうち、再資源化(再使用・再生利用)された建設副産物の割合を示すもので、環境保全への取り組み度合いを表す指標。	↑	94.3	90.0 以上※4	90.0 以上※4
配水量 1 m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	B301	電力使用量の合計 / 年間配水量	配水量 1 m ³ 当たりの電力消費量を表すもので、省エネルギー対策への取り組み度合いを表す指標。	↓	0.15	維持・低減	維持・低減
再生可能エネルギー利用率	%	B304	(再生設備電力使用量 / 全施設電力使用量) × 100	全施設の電力消費量に対する再生可能エネルギーの利用の割合を示すもので、環境負荷低減に対する取り組み度合いを表す指標。	↑	0.08	向上	向上

※1：業務指標(PI)とは、水道事業者が水道サービスを客観的な数値で示し、施設の整備状況や事業の経営状況などを総合的に評価するための指標として用いているものであり、ここでは指標番号を参考に示しています。

※2：各指標の理想値の方向性であり、「↑：高い方が望ましい」「↓：低い方が望ましい」を示します。

※3：将来の水道施設の更新需要増大により多額の建設改良費が必要となることから、企業債残高は上昇することが避けられない状況である一方、将来世代への過度の負担を残さないよう努めるための目標値としています。

※4：リサイクルの可否は現場で発生した副産物の状態や性状に影響され、指標の増減を把握することが困難であるため、過去3年間の実績値の最小値をもとに目標値を設定しています。